

■八尾市都市基盤施設維持管理推進会議（第1回）議事録（八尾市と近畿大学との官学連携）

日 時：平成 29 年 6 月 30 日（金） 15:30～17:00

場 所：近畿大学 5 号館 ACT-126 会議室

出席者：近畿大学理工学部 米田教授、東山教授

八尾市都市整備部 20 名

以上 22 名

◎次第（議題）

1. 報告事項

- (1) 八尾市都市基盤施設維持管理推進会議設置要綱について
- (2) 八尾市都市基盤施設維持管理基本方針（概要版）について

2. 議事

- (1) 平成 29 年度の取組み内容（行動計画）について〔議案 1〕
- (2) 平成 29 年度の取組み内容（官学連携）について〔議案 2〕

3. 報告事項（東山教授）

4. 意見交換

◎協議録（要旨）

1. 報告事項

- (1) 八尾市都市基盤施設維持管理推進会議設置要綱について（概要説明）
 - ・八尾市都市基盤施設維持管理推進会議設置要綱を平成 29 年 4 月 20 日から施行している。
 - ・定期的に推進会議を開催し、近畿大学との官学連携により行動計画に基づく進捗管理及び PDCA サイクルによる評価、検証を行っていきたいと考えている。
- (2) 八尾市都市基盤施設維持管理基本方針（概要版）について
 - ・八尾市都市基盤施設維持管理基本方針の概要版を作成し、平成 29 年 6 月 20 日の建設産業常任委員協議会において報告させて頂いた。
 - ・土木建設課のホームページにも掲載させて頂いている。

2. 議事

- (1) 平成 29 年度の取組み内容（行動計画）について

【土木建設課】

- ・先端事例研究派遣研修への参加を予定している。
- ・青色防犯パトロール等の地域活動との連携協力を拡充していきたいと考えている。
- ・今年度（平成 29 年度）は、橋長 2m 以上 15m 未満の橋梁について、定期点検を実施する予定である。
- ・今後は、橋梁長寿命化修繕計画の見直しや歩道橋等の点検、修繕計画の策定を予定している。

【土木管理事務所】

- ・取り組む内容が多岐にわたっているため、優先付けを行い、計画的に取り組んでいきたい。
- ・個別施設計画の策定については、第三者被害の発生が懸念される道路標識、道路照明灯などの道路付属物から先行的に取り組んでいきたいと考えている。
- ・限られた財源と人材のなか、点検体制の構築が課題となっており、不具合が早期発見できる仕組みづくりが必要と考えている。

【土木管財課】

- ・都市基盤施設のデータベースの充実と統合を図る。
 - ⇒ 充実については、施工記録をデータで確認できるようにする。
 - ⇒ 統合については、次年度以降、都市政策課やみどり課とのデータの統合を進める。
- ・広告やネーミングライツ等による財源確保を駅前の通路橋等で検討する。

- ・不要な里道、水路の売却を積極的に行う。

【都市政策課】

- ・まちなみセンターについて、指定管理者制度により維持管理を進めている。
- ・大規模改修は、公共施設マネジメントによる計画により実施する。

【交通対策課】

- ・自転車駐車場について、指定管理者の選定基準の見直しや、管理運営を継続できる仕組みを検討する。
- ・自転車駐車場の老朽化対策の中期的な計画を検討する。
- ・放置自転車の禁止区域を示す大型看板を小型化する検討を行う。

【都市基盤整備課】

- ・先行取得用地の定期的なパトロールを今後も継続的に実施する。
- ・整備まで時間を要する先行取得用地については、暫定的な整備を検討する。

【みどり課】

- ・地域拠点と連携し、アドプト状況の情報共有を図ってきた。
- ・今後もボランティア等の地域と協力した維持管理を推進する。
- ・公園施設長寿命化計画に基づき、土木管理事務所との協力により、夏休み前に公園遊具の点検を行う。

【下水道管理課】

- ・現在の長寿命化計画は限られた地区のみであるため、八尾市全域への計画の見直しを行う。

【下水道経営企画課】

- ・下水道管渠の維持管理において、限られた財源と人材を有効に活用した運営を行う。

【下水道整備課】

- ・下水道管理課とも協議をしながら、維持管理を考えた公共下水道の整備を行う。
- ・改築工事について、新しい技術を念頭に置いた公共下水道の整備を進めていきたい。

(2) 平成 29 年度の取組み内容（官学連携）について

- ・八尾市都市基盤施設維持管理推進会議（担当国会議）の開催（7 月、3 月）
- ・橋梁日常点検の実施（9 月～12 月）
- ・先端事例研究派遣研修（9 月～12 月）
- ・橋梁点検研修の実施（12 月）
- ・職員による橋梁点検の実施（1 月）

3. 報告事項（東山教授）

○橋梁の維持管理に関する自治体アンケートの報告

- ・点検の評価、対策手法を課題としている自治体は多い。
- ・橋梁修繕に関する人材が不足している。
- ・職員の技術力不足の要因は、維持管理経験の長さである。※少なくとも 3～5 年の経験が必要。

○橋梁維持管理ハンドブックについて

- ・市町村における技術的なサポートを目的とした中小規模橋梁の維持管理ハンドブックを作成した。
- ・アンケート要望の多かった健全性の診断手法や、補修補強における設計・積算、工事施工における留意点のほか、対策優先順位の決定手法に関する内容等を記載している。

4. 意見交換

- ・橋梁毎の損傷状況が建設当時の示方書や実際の通過交通量等の違いにより複雑化している。
そのため施工方法の選定方法に苦慮している。
- ・設計段階だけでなく施工段階においても、引き続き助言を頂きたい。